

表3-15 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と死者の関係(電気ストーブ関連)〔B(前期高齢者)〕

建物用途	死者数(人)	割合(%)
住宅	5	62
共同住宅	3	38
合計	8	100

B(前期高齢者)における建物用途の割合

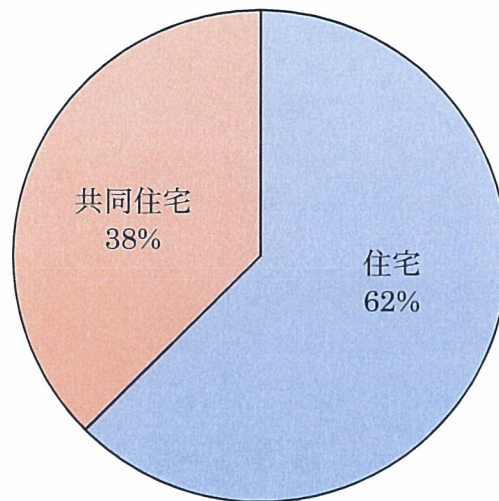


図3-18 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と死者の割合(電気ストーブ関連)〔B(前期高齢者)〕

表3-16 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と死者の関係(電気ストーブ関連)〔C(後期高齢者)〕

建物用途	死者数(人)	割合(%)
住宅	32	59
共同住宅	21	39
物品販売店舗	1	2
合計	54	100

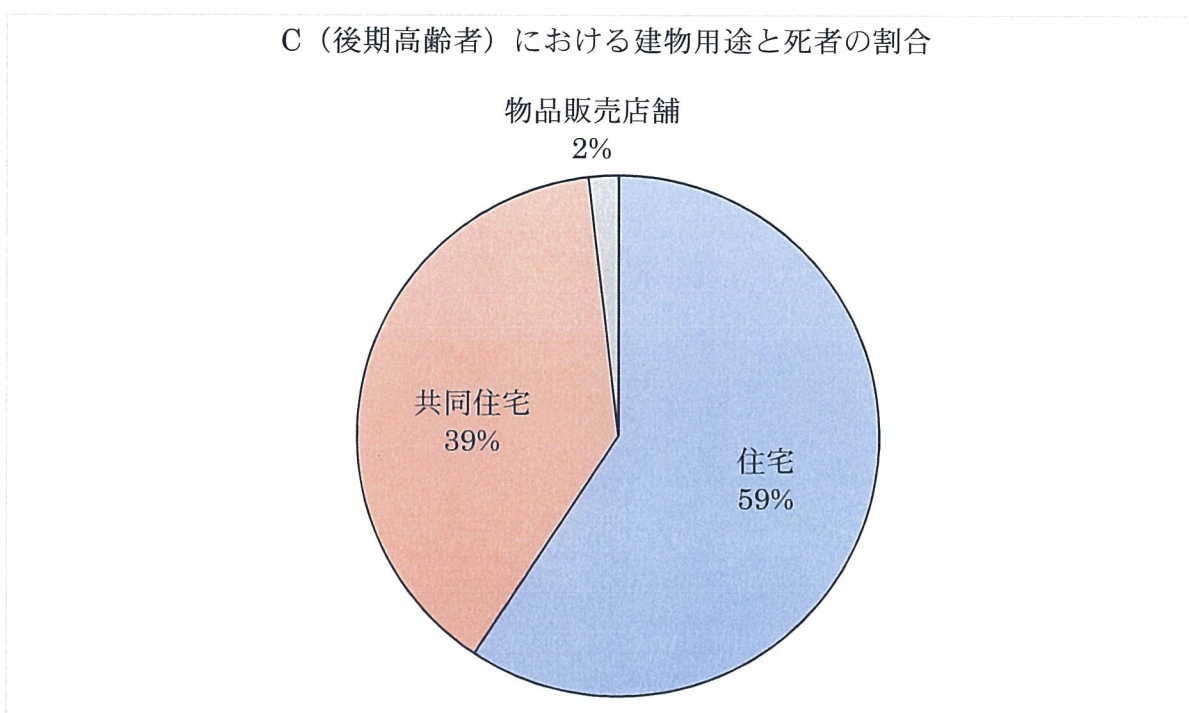


図3-19 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と死者の割合(電気ストーブ関連)〔C(後期高齢者)〕

建物用途は各区分を通じてほぼ同じ割合となり、住宅が60%で共同住宅が40%となった。

表 3-17 最近 10 年（平成 17 年～平成 26 年）における建物構造と死者の関係（電気ストーブ関連）〔全体〕

建物構造	死者数(人)	割合(%)
木造	7	9
防火造	41	52
耐火造	26	33
準耐火造	5	6
合計	79	100

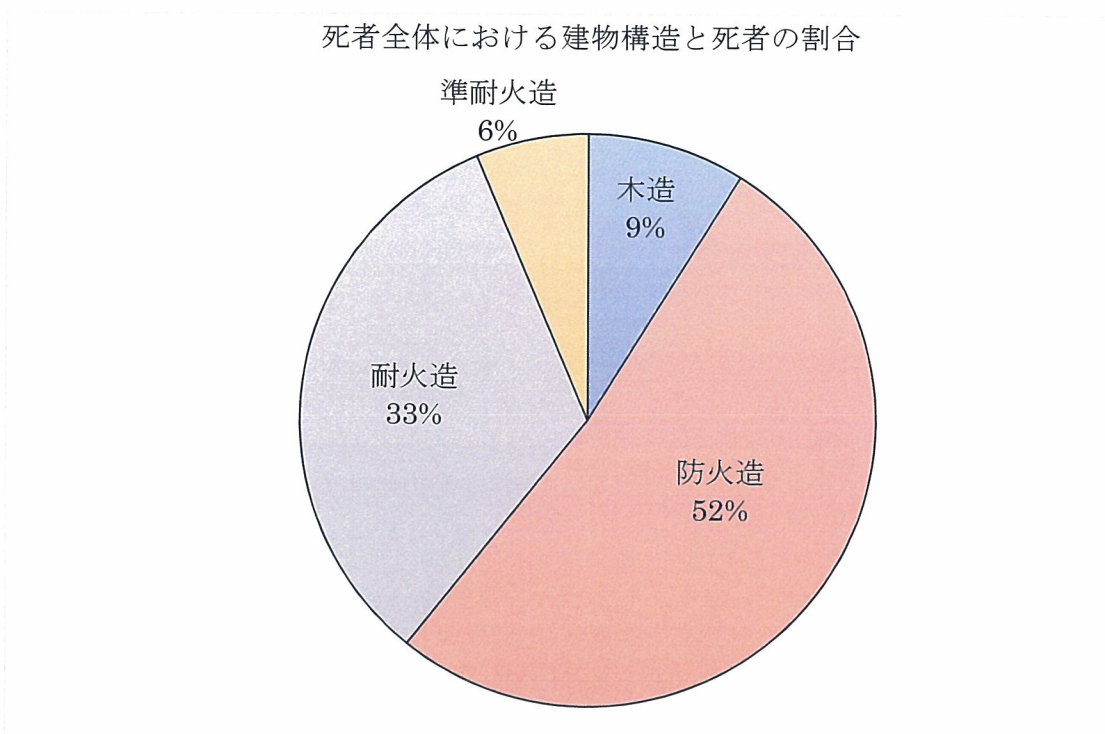


図 3-20 最近 10 年（平成 17 年～平成 26 年）における建物構造と死者の割合（電気ストーブ関連）〔全体〕

表 3-18 最近10年(平成17年～平成26年)における建物構造と死者の関係(電気ストーブ関連)〔A(高齢者以外)〕

建物構造	死者数(人)	割合(%)
木造	2	12
防火造	8	47
耐火造	5	29
準耐火造	2	12
合計	17	100

A(高齢者以外)における建物構造と死者の割合

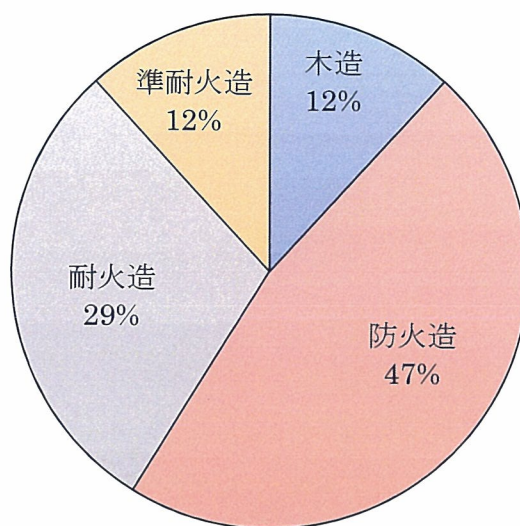


図 3-21 最近10年(平成17年～平成26年)における建物構造と死者の割合(電気ストーブ関連)〔A(高齢者以外)〕

表 3-19 最近10年（平成17年～平成26年）における建物構造と死者の関係（電気ストーブ関連）〔B（前期高齢者）〕

建物構造	死者数(人)	割合(%)
木造	1	12
防火造	7	88
合計	8	100

B（前期高齢者）における建物構造と死者の割合

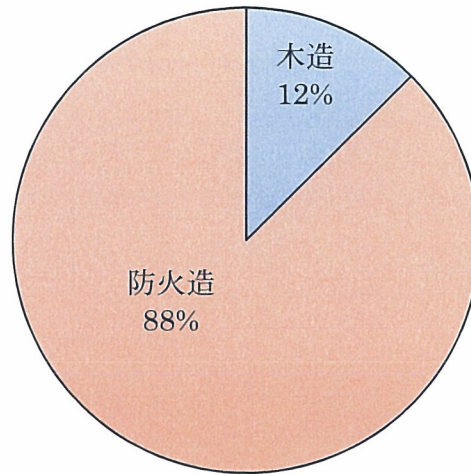


図 3-22 最近10年（平成17年～平成26年）における建物構造と死者の割合（電気ストーブ関連）〔B（前期高齢者）〕

表 3-20 最近10年（平成17年～平成26年）における建物構造と死者の関係（電気ストーブ関連）〔C（後期高齢者）〕

建物構造	死者数(人)	割合(%)
木造	4	7
防火造	26	48
耐火造	21	39
準耐火造	3	6
合計	54	100

C（後期高齢者）における建物構造と死者の割合

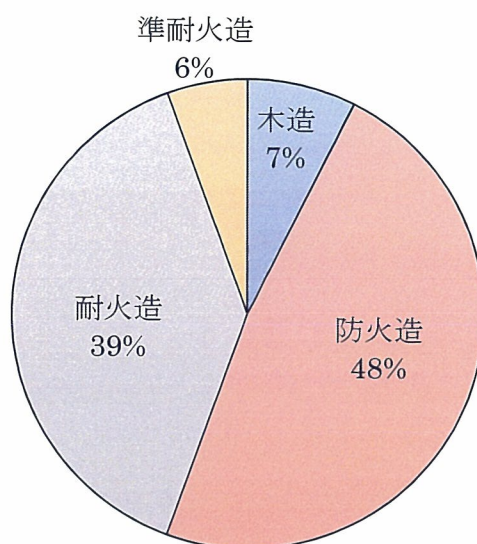


図 3-23 最近10年（平成17年～平成26年）における建物構造と死者の割合（電気ストーブ関連）〔C（後期高齢者）〕

全体的には防火造の割合が多い傾向にあるが、C（後期高齢者）においては、防火造に次ぐ耐火造が占める割合が他と比較して多い。

表 3-21 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)全体

火災程度	死者数(人)	割合(%)
ぼや	8	10
全焼	22	28
半焼	17	22
部分焼	32	40
合計	79	100

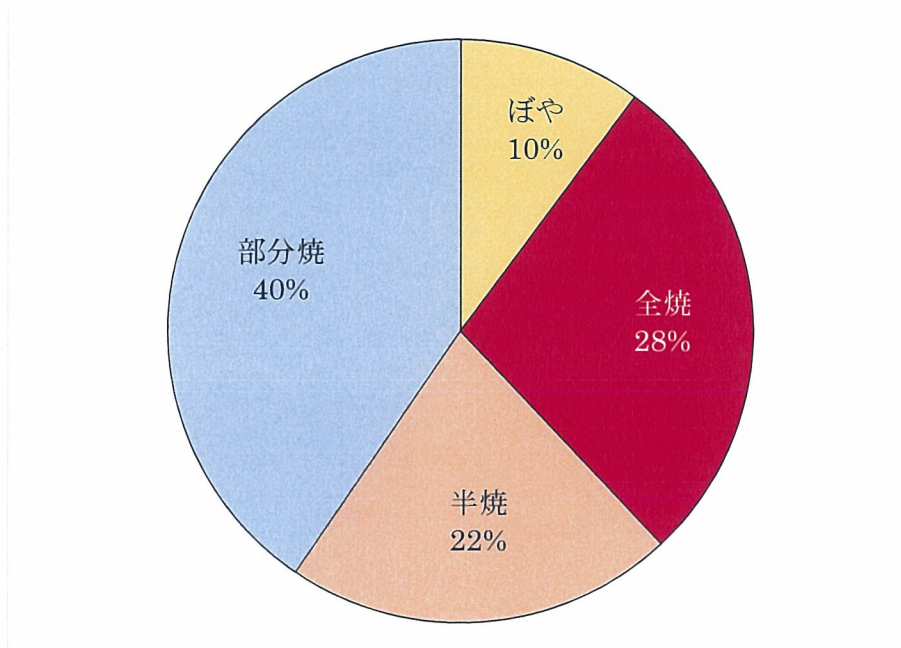


図 3-24 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の割合(電気ストーブ関連)〔全体〕

全焼、半焼、部分焼とも30%前後となり、同程度の割合となっている。

(備考)

全 焼：建物の70%以上を焼損したものの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。

半 焼：建物の20%以上70%未満を焼損したものをいう。

部分焼：全焼、半焼及びぼやに該当しないものをいう。

ぼ や：建物の10%未満を焼損したもので、かつ、焼損床面積若しくは焼損表面積が1m²未満のもの、又は収容物のみを焼損したものをいう。

表 3-22 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)〔A(高齢者以外)〕

火災程度	死者数(人)	割合(%)
部分焼	6	35
半焼	5	30
全焼	5	29
ぼや	1	6
合計	17	100

A(高齢者以外)における火災程度と死者の割合

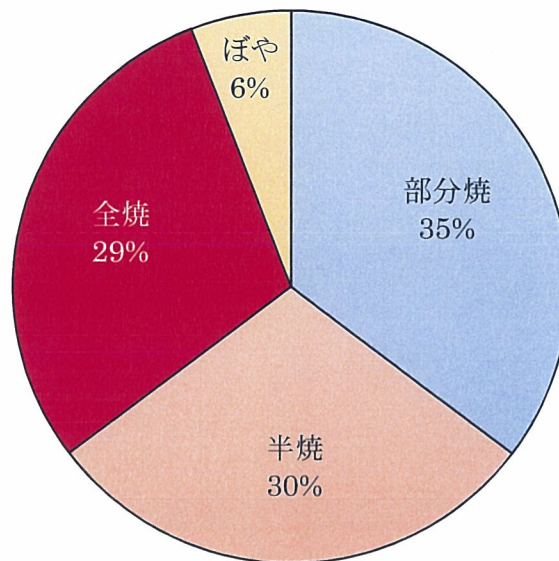


図 3-25 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の割合(電気ストーブ関連)〔A(高齢者以外)〕

表3-23 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)〔B(前期高齢者)〕

火災程度	死者数(人)	割合(%)
部分焼	2	25
半焼	2	25
全焼	4	50
合計	8	100

B(前期高齢者)における火災程度と死者の割合

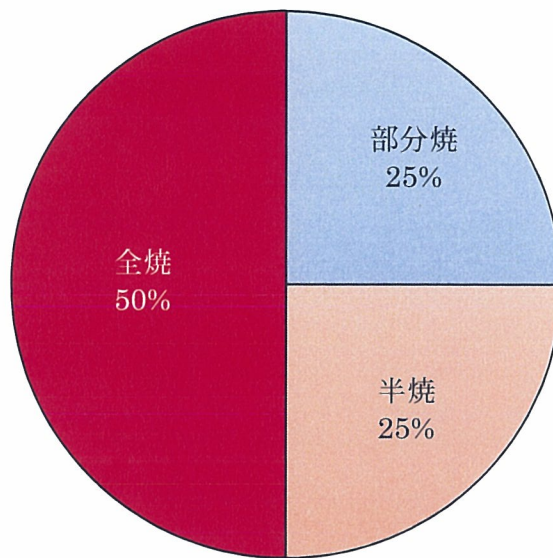


図3-26 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の割合(電気ストーブ関連)〔B(前期高齢者)〕

表3-24 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)〔C(後期高齢者)〕

火災程度	死者数(人)	割合(%)
部分焼	24	44
半焼	10	19
全焼	13	24
ぼや	7	13
合計	54	100

C(後期高齢者)における火災程度と死者の割合

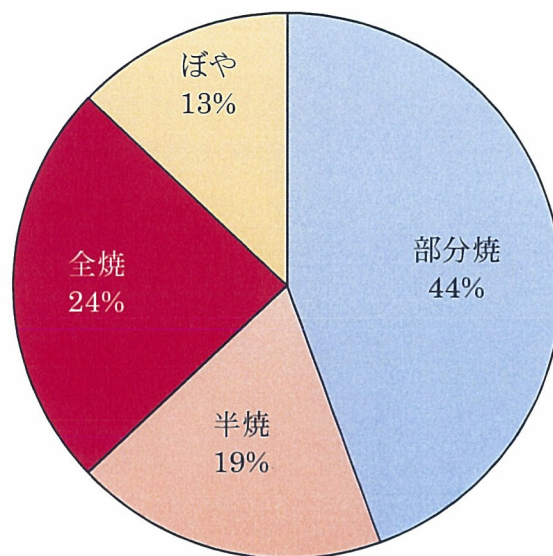


図3-27 最近10年(平成17年～平成26年)における火災程度と死者の割合(電気ストーブ関連)〔C(後期高齢者)〕

全体的には全焼による死者の割合が多い傾向にあるが、C(後期高齢者)区分においては、部分焼が最も多い。

表 3-25 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)〔全体〕

死 因	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
一酸化炭素中毒死	27	ぼや	4
		全焼	5
		半焼	3
		部分焼	15
火傷死	7	ぼや	2
		全焼	1
		半焼	1
		部分焼	3
焼 死	41	全焼	15
		半焼	13
		部分焼	13
窒息死	1	ぼや	1
その他	3	全焼	1
		部分焼	1
		ぼや	1
合 計	79		79

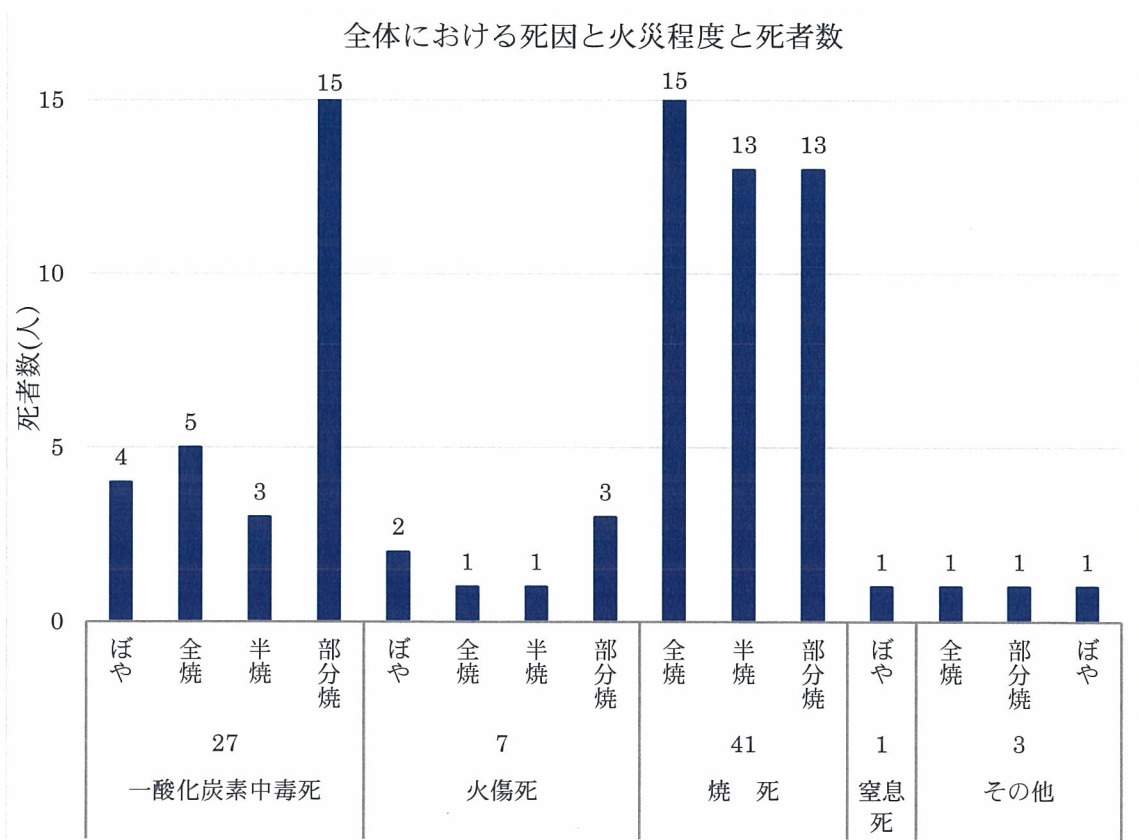


図 3-28 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者数(電気ストーブ関連)〔全体〕

全体では焼死の割合が高く、全体の過半数を超える。焼死では、全焼、半焼及び部分焼の割合はほぼ同じだが、一酸化炭素中毒死では部分焼の割合が非常に高い。

(注) その他：一酸化炭素中毒死、火傷死、焼死及び窒息死に含まれないもの

表3-26 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)〔A(高齢者以外)〕

死 因	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
一酸化炭素中毒死	4	全焼	1
		部分焼	2
		ぼや	1
火傷死	1	部分焼	1
焼 死	11	全焼	3
		半焼	5
		部分焼	3
その他	1	全焼	1
合 計	17		17

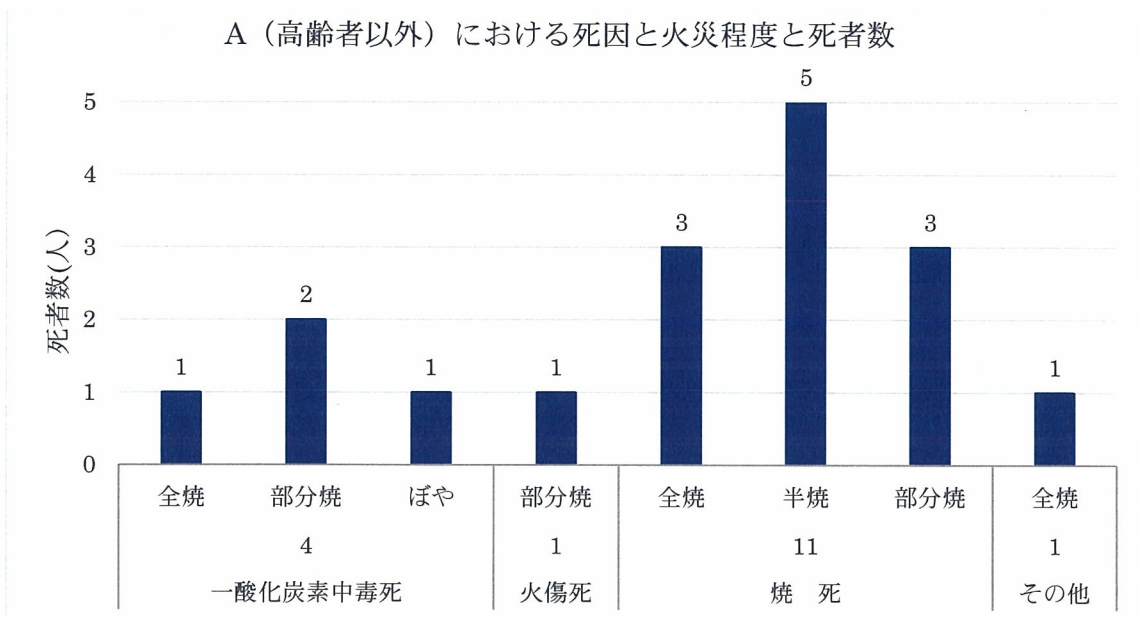


図3-29 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者数(電気ストーブ関連)〔A(高齢者以外)〕

(注) その他：一酸化炭素中毒死、火傷死及び焼死に含まれないもの

表 3-27 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者数の関係
(電気ストーブ関連)〔B(前期高齢者)〕

死 因	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
一酸化炭素中毒死	1	部分焼	1
焼 死	7	全焼	4
		半焼	2
		部分焼	1
合 計	8		8

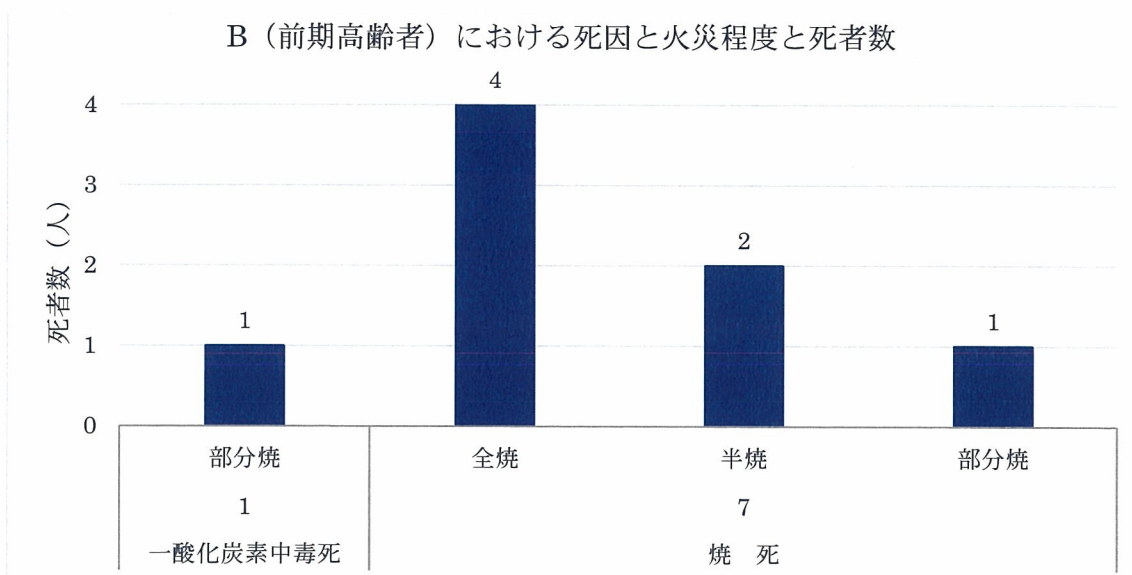


図 3-30 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者数(電気ストーブ関連)〔B(前期高齢者)〕

表 3-28 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者数の関係
(電気ストーブ関連)〔C(後期高齢者)〕

死 因	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
一酸化炭素中毒死	22	ぼや	3
		全焼	4
		半焼	3
		部分焼	12
火傷死	6	ぼや	2
		全焼	1
		半焼	1
		部分焼	2
焼 死	23	全焼	8
		半焼	6
		部分焼	9
窒息死	1	ぼや	1
その他	2	部分焼	1
		ぼや	1
合 計	54		54

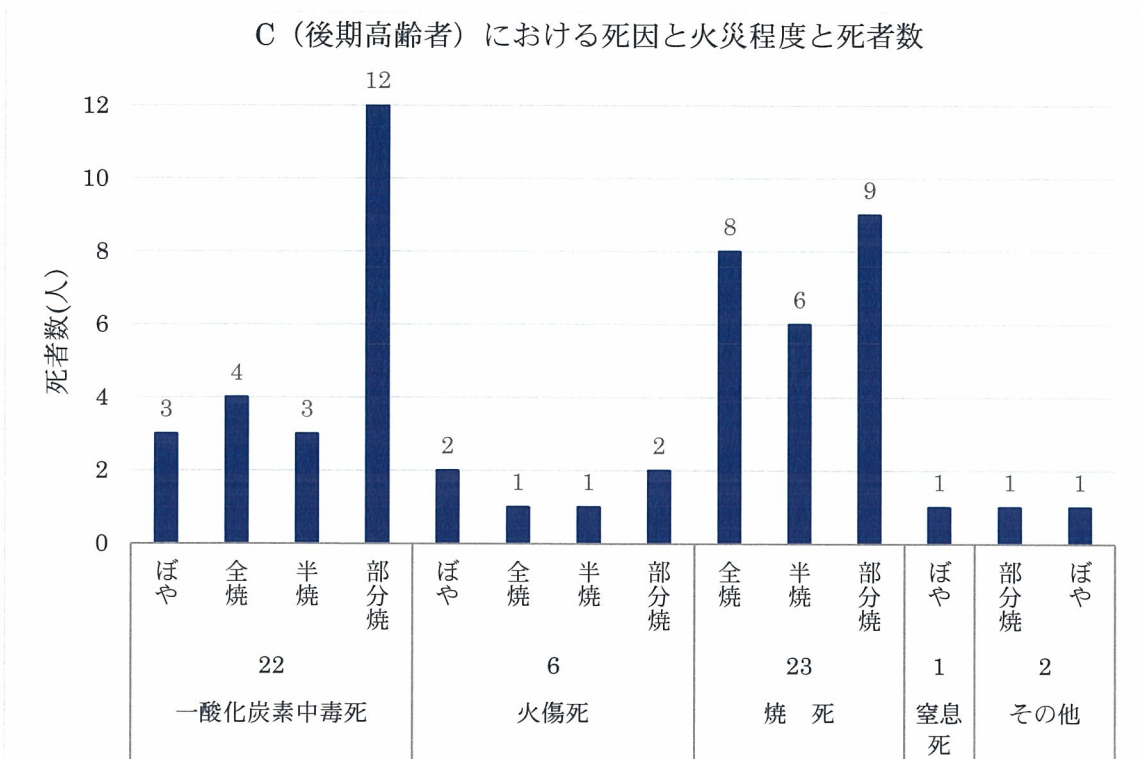


図 3-31 最近10年(平成17年～平成26年)における死因と火災程度と死者数(電気ストーブ関連)〔C(後期高齢者)〕

焼死及び一酸化炭素中毒死の割合が高く、2つを合わせると8割を超える。一酸化炭素中毒死の中で部分焼が占める割合は、焼死で部分焼が占める割合より高く、過半数を超える。

(注) その他：一酸化炭素中毒死、火傷死、焼死及び窒息死に含まれないもの

表 3-29 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者の関係(電気ストーブ関連)〔全体〕

建物用途	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
住 宅	47	全焼	21
		半焼	12
		部分焼	9
		ぼや	5
共同住宅	31	全焼	1
		半焼	4
		部分焼	23
		ぼや	3
物品販売店舗	1	半焼	1
合 計	79		79

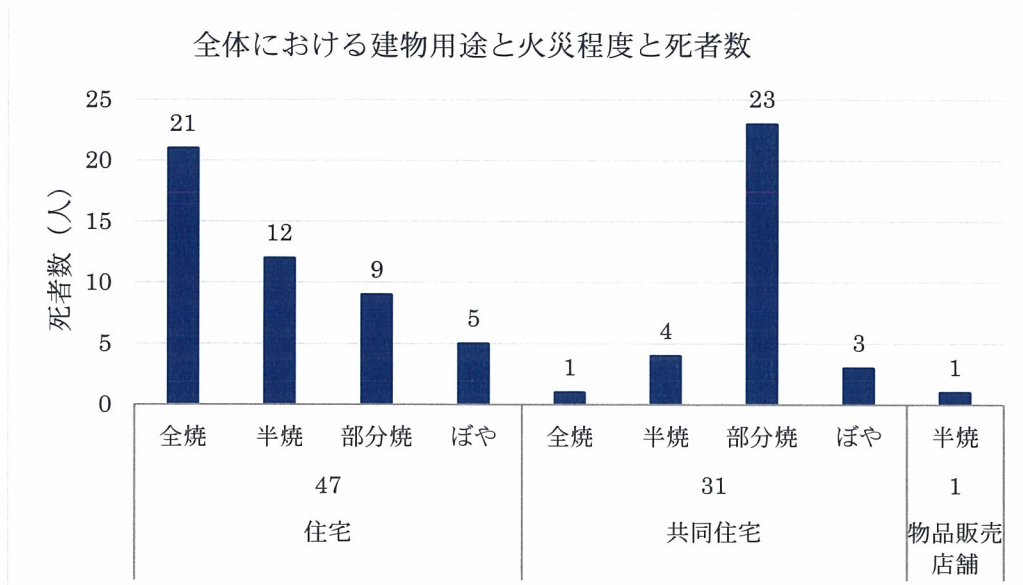


図 3-32 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者数(電気ストーブ関連)〔全体〕

全体では住宅が最も多い。その中でも全焼が最も多く、火災の程度が大きいほど、死者数は多い。共同住宅では部分焼が最も多く、7割以上を占める。

表 3-30 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者の関係
(電気ストーブ関連) [A(高齢者以外)]

建物用途	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
住 宅	10	全焼	5
		半焼	4
		部分焼	1
共同住宅	7	半焼	1
		部分焼	5
		ぼや	1
合 計	17		17

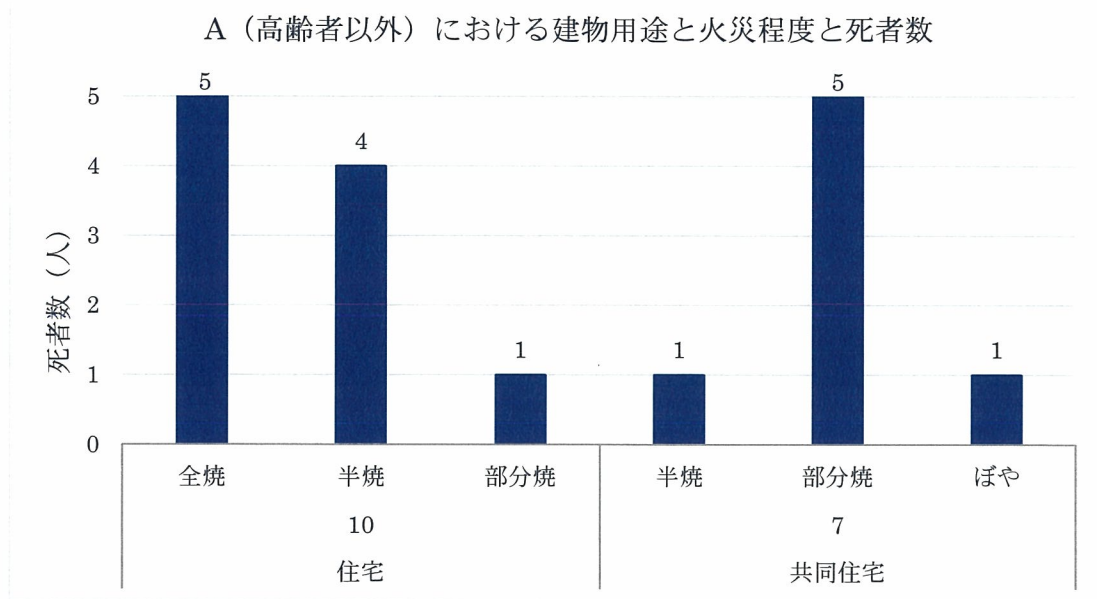


図 3-33 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者数(電気ストーブ関連) [A(高齢者以外)]

表 3-31 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者の関係
(電気ストーブ関連) [B(前期高齢者)]

建物用途	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
住 宅	5	全焼	3
		半焼	1
		部分焼	1
共同住宅	3	全焼	1
		半焼	1
		部分焼	1
合 計	8		8

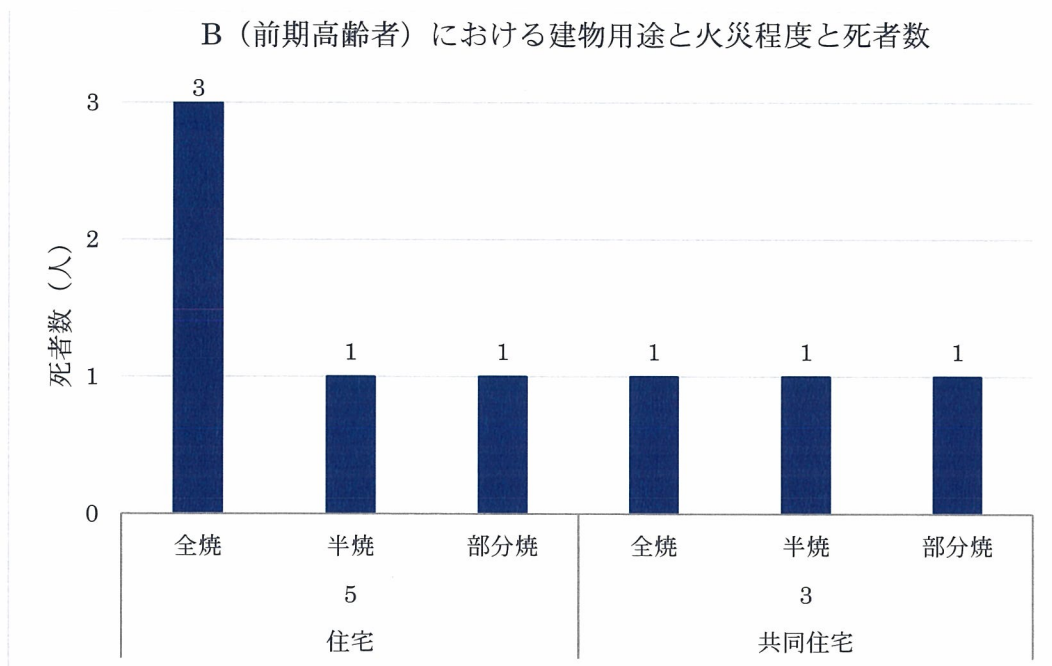


図 3-34 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者数(電気ストーブ関連) [B(前期高齢者)]

表 3-32 最近10年(平成17年～平成26年)における建物用途と火災程度と死者の関係
(電気ストーブ関連) [C(後期高齢者)]

建物用途	死者数(人)	火災程度	死者数(人)
住 宅	32	全焼	13
		半焼	7
		部分焼	7
		ぼや	5
共同住宅	21	半焼	2
		部分焼	17
		ぼや	2
物品販売店舗	1	半焼	1
合 計	54		54

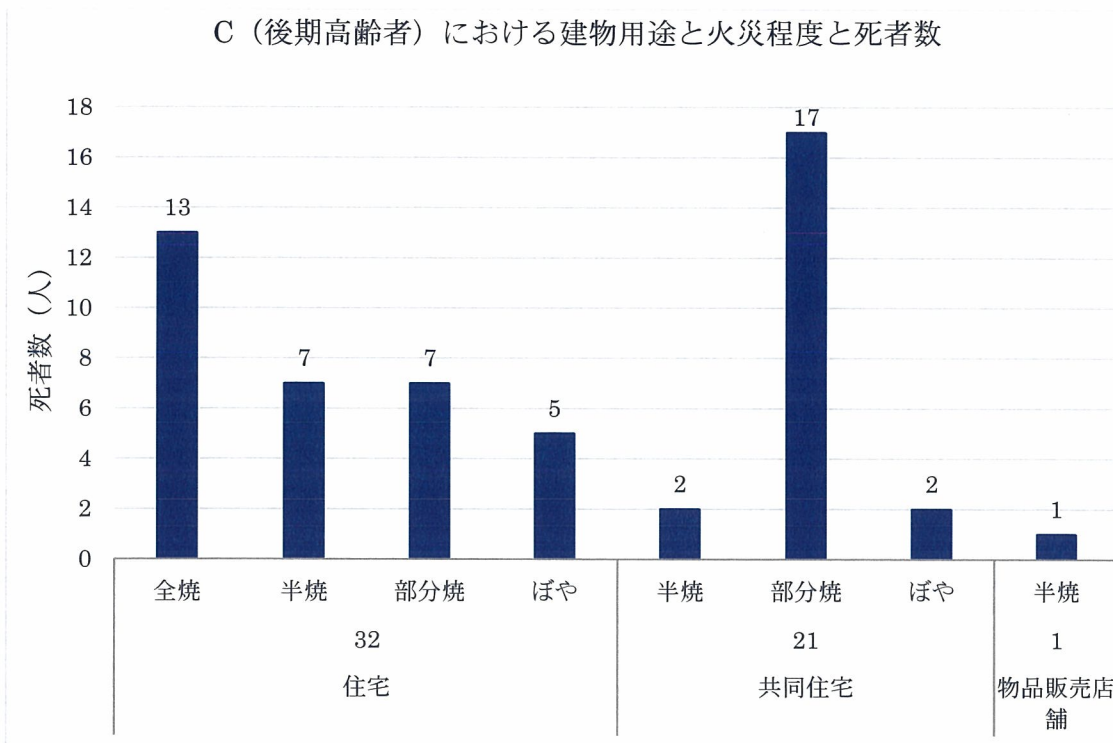


図 3-35 最近10年(平成17年～平成26年)における高齢者の区分別建物用途と火災程度と死者数 (電気ストーブ関連) [C(後期高齢者)]

全体では住宅が最も多い。その中では全焼が最も多く火災の程度が大きいほど、死者数は多い。共同住宅では部分焼が最も多く、A (高齢者以外)、B (前期高齢者) と比較すると、その割合は高い。

表 3-33 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者の関係（電気ストーブ関連）〔全体〕

建物用途	死者数(人)	出火箇所同別	死者数(人)
共同住宅	31	階が同じ	4
		出火箇所と同じ	27
住 宅	47	階が同じ	17
		建物が同じ	4
		出火箇所と同じ	26
物品販売店舗	1	出火箇所と同じ	1
合 計	79		79

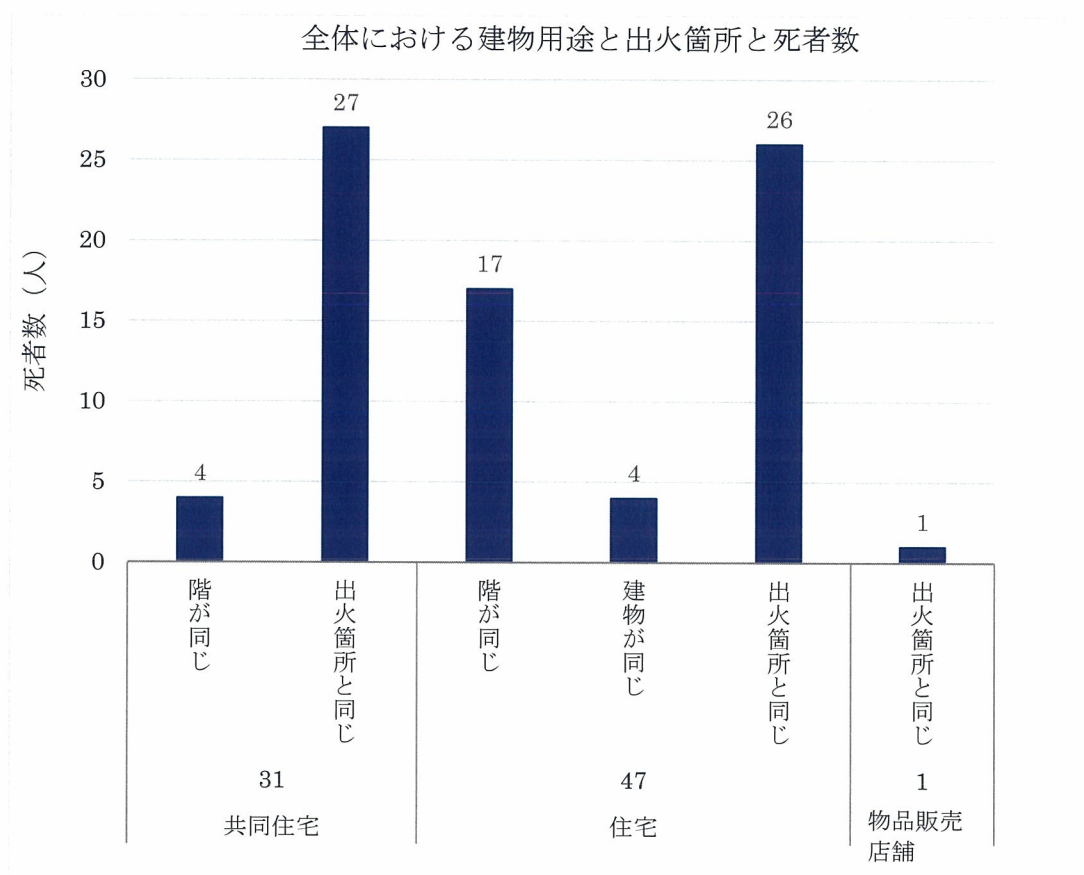


図 3-36 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者数（電気ストーブ関連）〔全体〕

全体の共同住宅では出火箇所と同じが多く、階が同じとの差が大きい。
住宅では出火箇所と同じが多いが、階が同じとの差は共同住宅より小さくなっている。

表3-34 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者の関係（電気ストーブ関連）〔A（高齢者以外）〕

建物用途	死者数(人)	出火箇所	死者数(人)
共同住宅	7	階が同じ	2
		出火箇所と同じ	5
住宅	10	階が同じ	2
		建物が同じ	4
		出火箇所と同じ	4
合計	17		17

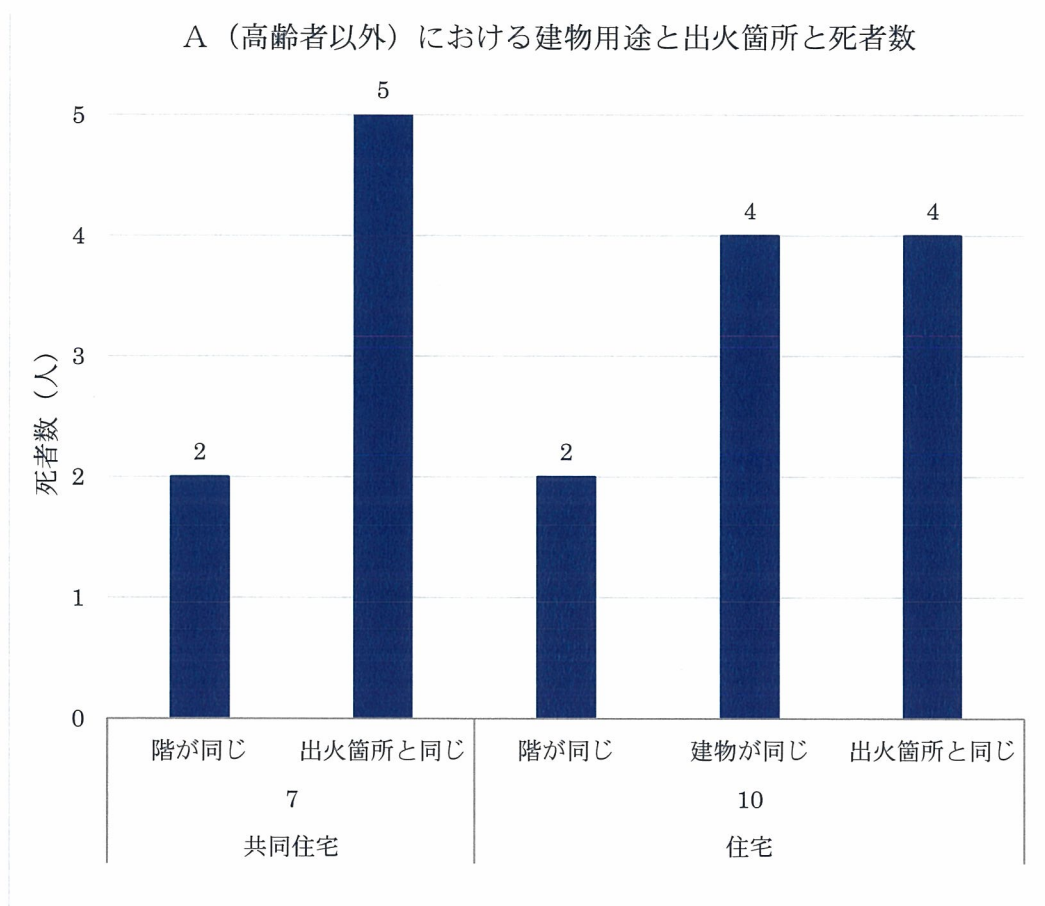


図3-37 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者数（電気ストーブ関連）〔A（高齢者以外）〕

表 3-35 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者の関係（電気ストーブ関連）〔B（前期高齢者）〕

建物用途	死者数(人)	出火箇所	死者数(人)
共同住宅	3	出火箇所と同じ	3
住 宅	5	階が同じ	1
		出火箇所と同じ	4
合 計	8		8

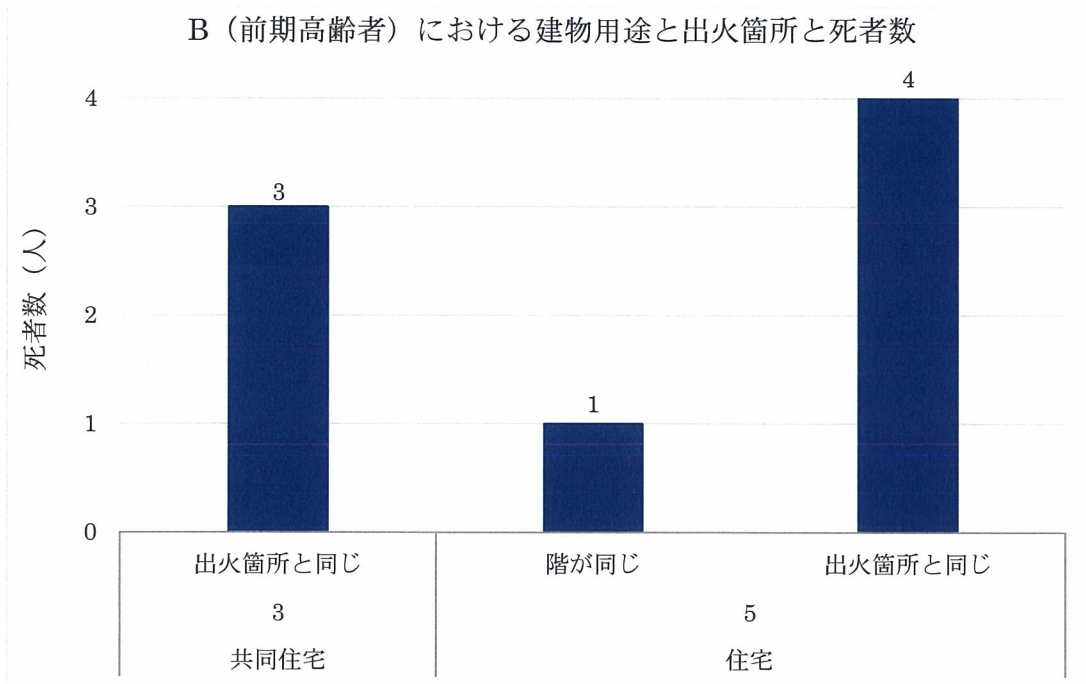


図 3-38 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者数（電気ストーブ関連）〔B（前期高齢者）〕

表3-36 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者の関係（電気ストーブ関連）〔C（後期高齢者）〕

建物用途	死者数(人)	出火箇所	死者数(人)
共同住宅	21	階が同じ	2
		出火箇所と同じ	19
住宅	32	階が同じ	14
		出火箇所と同じ	18
物品販売店舗	1	出火箇所と同じ	1
合計	54		54

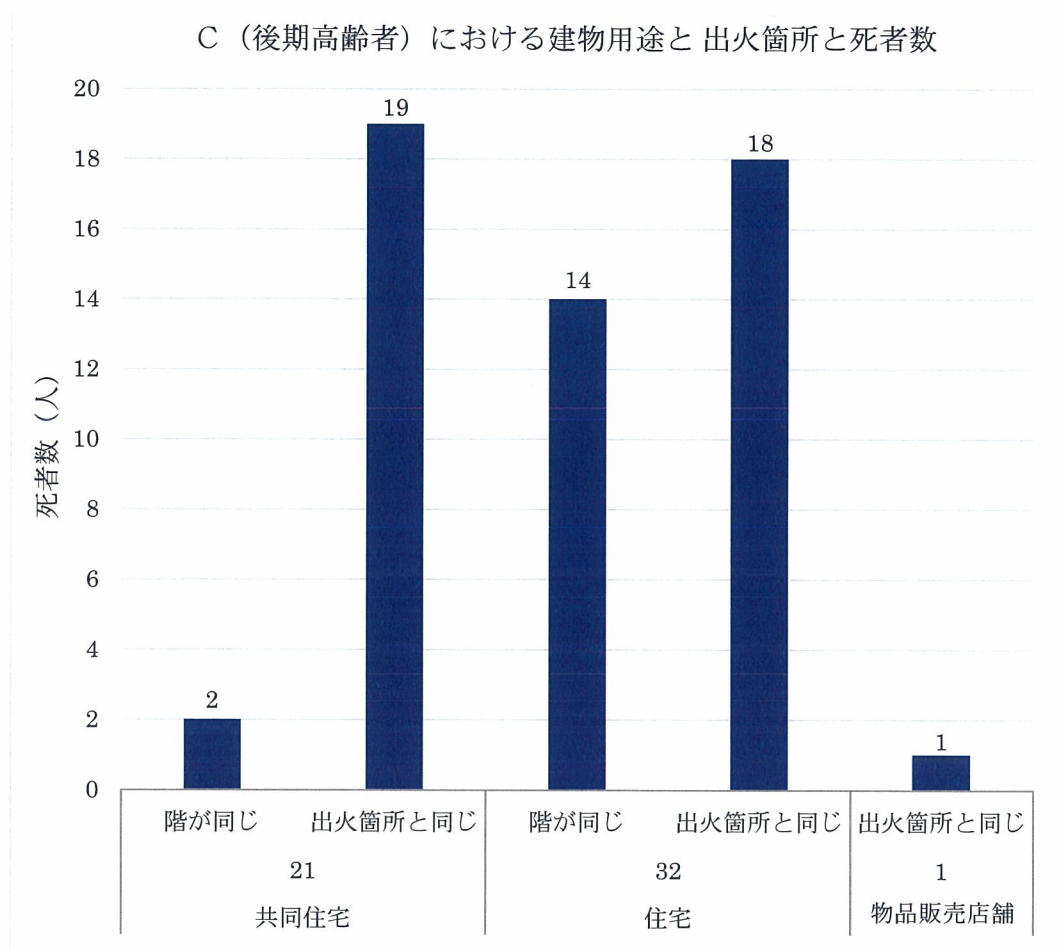


図3-39 最近10年（平成17年～平成26年）における建物用途と出火箇所と死者数（電気ストーブ関連）〔C（後期高齢者）〕

A（高齢者以外）では、住宅において、「建物が同じ」と「出火箇所が同じ」が同数となっている。
 B（前期高齢者）では、共同住宅は「出火箇所が同じ」のみであり、住宅では「出火箇所と同じ」が「階が同じ」より多い。
 C（後期高齢者）では、共同住宅でも住宅でも「階が同じ」よりも「出火箇所と同じ」が多いが、住宅における「階が同じ」と「出火箇所と同じ」との差は共同住宅より小さくなっている。